

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	島根県地域水産業再生委員会
代表者名	会長 岸 宏

再生委員会の構成員	漁業協同組合 JF しまね、島根県農林水産部、益田市、浜田市、江津市、大田市、出雲市、松江市、隠岐の島町、西ノ島町、知夫村
オブザーバー	無し

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	益田地区(JFしまね益田支所管内) 一本釣り・刺網・採介藻漁業(163人) 定置漁業(1経営体)
-----------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

益田地区は、島根県の最西端に位置し、南に中国山地が連なり、北は日本海に面する。中国山地を源とした一級河川「高津川」と「益田川」の2河川が日本海に流れ込む、東西約30.1kmの海岸線の沿岸域が主な漁場である。

当地区の漁業種類は、まき網漁業、定置漁業、一本釣り漁業、採貝藻漁業といった沿岸漁業を主体に営んでおり、中小漁業者が大半を占めている。

益田沖では、温暖化の影響と思われる海藻の立ち枯れや、ウニ等による食害により磯焼けが進行するなど漁場環境の悪化や、漁業従事者の高齢化・後継者不足等により漁獲量が低迷すると共に、燃油の高騰による影響も相まって漁業経営は非常に厳しい現状となっている。

益田地区の漁獲量は、平成10年代には1,200トンから2,000トンの水準で推移していたが、平成20年以降には1,100トンの水準で推移した後、平成25年には650トンまで落ち込んだ。また、漁獲金額についても同様の傾向にあり、平成10年ごろまでは8億円前後の水準であったが、近年では3億円前後まで下落している状況となっている。

その要因としては、まき網漁業の漁獲量の落ち込みが激しく、平成19年には940トンあった漁獲量が、平成25年は260トンと約4分の1まで減少したことに加え、定置漁業や刺網漁業も総じて減少傾向となっている。

それに加えて、平成16年には810人であったJFしまね益田支所に所属する組合員数が、平成25年には588人と10年で222人減少したことが大きく影響しており、漁業の担い手確保が急務となっている。

## (2) その他の関連する現状等

当地区では、希少価値の高い天然のチョウセンハマグリが水揚げされており、資源保護のため、漁業者が自主的に漁法の制限や操業時間の限定、漁獲量の制限に取組み「鴨島はまぐり」の愛称でPRに取り組んだ結果、知名度の向上とともに平均単価も年々上がっており、ブランド化が図られた魚種も存在する。

益田地区の卸売市場は消費地市場の性格を有していることから、比較的魚価は高めではあるものの、過去と比較すると魚価は低迷しているため、漁業経営を圧迫している。

このため、魚価の改善と漁業経営の安定を目指して、平成26年度から市と漁協が連携して地域で水揚げされるハマグリ以外の水産物の付加価値向上の取組みに着手し、並行して検証も行う予定としている。

また、山から海への環境保全を図るため、漁業者と森林組合が協力して、「森で海を救おう植林事業」を実施している。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

当地区の漁業の実態や現状を考えれば、漁獲量の回復を図ることが重要であり、そのためには、新規就業者の確保や定着により漁業生産体制を確立することを第一とし、併せて以下の漁場環境の改善や漁獲物の付加価値向上及び消燃油対策を推進することにより、地域漁業者の所得を向上させることとしたい。

なお、目標値として、益田地区における漁獲量を平成19年当時の漁獲量(1,681 トン)水準まで回復させることを目指す。

##### 1. 後継者育成

漁業者の減少及び高齢化が進んでおり、巻網漁業や定置漁業を中心として、U・Iターン者の受け入れを行うことで、漁業の担い手を確保すると共に、足腰の強い生産体制を確立し、漁獲量の回復を図る。

##### 2. 磯根漁場環境の改善

磯焼け対策として、岩盤清掃や食害ウニの駆除を行い、海藻の再生に取り組むことで、魚の産卵、稚魚の育つ環境づくりを行うとともに、磯根資源の餌となる藻類の回復によりアワビ・サザエの資源量の回復にも資する。

また、森から海の再生を図ることを目的に、植林事業を行う。併せて、栽培漁業を推進し、アワビの種苗放流を実施することで水産資源を維持増大させ、漁獲量の向上を図る。

##### 3. 漁業収入の向上

一本釣り漁業を対象として、漁獲直後から漁獲物の冷却による鮮度保持を推進・拡大することを目的とした鮮度保持研修会を実施し、地域で水揚げされる水産物の品質向上を図る。

また、近年高品質で安全な地元産品に対する需要が高まっている中で、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上を目的として、1尾ずつタグをつけて出荷を行い、段階的に魚価の向上を図る。

##### 4. 漁業コスト削減

燃油価格が高騰するなかで、漁業経費に占める燃料費を節減することも漁業経営を考えるうえで重要であり、定期的な船底清掃の実施と併せて出漁・帰港時ともに1ノットの減速航行を徹底することで燃油消費量を削減し、漁業所得の改善に資する。

#### 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

該当なし

※プランの取組みに関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

#### (3) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

(具体的な取組内容については、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じて見直す事とする。)

1年目(平成26年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・一本釣り漁業者は、島根県水産技術センターとも連携して、活け締め等の処理を行った漁獲物にタグを装着することについて、市場の評価を調査する。市場関係者等からの意見を聞きつつ、評価結果のフィードバックと併せて、統一した手法での活け技術等を導入し鮮度保持に努めることにより、一本釣り漁獲物の品質改善を図る。</p> <p>また、使用するタグについても、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上が図れるよう、デザインやタグを装着する場所等を検討し、3年以内にタグ装着の基準や手法について確立する。</p> <p>・漁業者は漁協等と協力して、磯根漁場の環境改善のため、岩盤清掃や海藻の食害生物であるウニの駆除を行うことで海藻の再生に取り組み、魚類の産卵や稚魚の育つ環境づくりを推進するとともに、アワビ種苗の放流も行い、アワビ・サザエの資源量の回復を図る。</p> <p>なお、森から海の再生を目的とした植林事業についても継続して実施し、益田市沿岸の環境改善に資する。</p> <p>・定置漁業者及び巻網漁業者は、それぞれの乗組員確保に向けて、(財)しまね定住財団、益田市、JFしまね益田支所による協議を開始し、次年度以降のUIターン者の受け入れ準備を行う。</p> <p>所得改善目標 定置漁業 0% 一本釣り漁業等 0%</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、定期的な船底清掃を実施することで漁船航行時の抵抗を軽減すると共に、出漁、帰港時の減速航行(1ノット)を徹底することで燃油消費量を削減し漁業所得向上を図る。</p> <p>コスト削減目標 定置漁業 9.4% 一本釣り漁業等 2.0%</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市沿岸漁業水産振興協議会事業</li> <li>・石見地域水産振興協議会事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> <li>・省燃油活動推進事業</li> </ul>

2年目(平成27年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・一本釣り漁業者は、島根県水産技術センターとも連携して、活け締め等の処理を行った漁獲物にタグを装着することについて、市場の評価を調査する。市場関係者等からの意見を聞きつつ、評価結果のフィードバックと併せて、統一した手法での活け技術等を導入し鮮度保持に努めることにより、一本釣り漁獲物の品質改善を図る。</p> <p>また、使用するタグについても、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上が図れるよう、デザインやタグを装着する場所等を検討し、2年以内にタグ装着の基準や手法について確立する。</p> <p>・漁業者は漁協等と協力して、磯根漁場の環境改善のため、岩盤清掃や海藻の食害生物であるウニの駆除を行うことで海藻の再生に取り組み、魚類の産卵や稚魚の育つ環境づくりを推進するとともに、アワビ種苗の放流も行い、アワビ・サザエの資源量の回復を図る。</p> <p>なお、森から海の再生を目的とした植林事業についても継続して実施し、益田市沿岸の環境改善に資する。</p> <p>・定置漁業者及び巻網漁業者は、それぞれの乗組員確保に向けて、(財)しまね定住財団、益田市、JFしまね益田支所による協議を開始し、順次のUIターン者の受け入れを行う。</p> <p>所得改善目標 定置漁業 4.6% 一本釣り漁業等 0%</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、定期的な船底清掃を実施することで漁船航行時の抵抗を軽減すると共に、出漁、帰港時の減速航行(1ノット)を徹底することで燃油消費量を削減し漁業所得向上を図る。</p> <p>所得改善目標 定置漁業 4.6% 一本釣り漁業等 0%</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市沿岸漁業水産振興協議会事業</li> <li>・新農林水産振興がんばる地域応援総合事業</li> <li>・UIターンしまね産業体験事業</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業</li> </ul>

3年目(平成28年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・一本釣り漁業者は、島根県水産技術センターとも連携して、活け締め等の処理を行った漁獲物にタグを装着することについて、市場の評価を調査する。市場関係者等からの意見を聞きつつ、評価結果のフィードバックと併せて、統一した手法での活け技術等を導入し鮮度保持に努めることにより、一本釣り漁獲物の品質改善を図る。</p> <p>また、使用するタグについても、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上が図れるよう、デザインやタグを装着する場所等を検討し、本年度にタグ装着の基準や手法について確立し魚価の向上を図る。</p> <p>・漁業者は漁協等と協力して、磯根漁場の環境改善のため、岩盤清掃や海藻の食害生物であるウニの駆除を行うことで海藻の再生に取り組み、魚類の産卵や稚魚の育つ環境づくりを推進するとともに、アワビ種苗の放流も行い、アワビ・サザエの資源量の回復を図る。</p> <p>なお、森から海の再生を目的とした植林事業についても継続して実施し、益田市沿岸の環境改善に資する。</p> <p>・定置漁業者及び巻網漁業者は、それぞれの乗組員確保に向けて、(財)しまね定住財団、益田市、JFしまね益田支所による協議を開始し、逐次UIターン者の受け入れを行う。</p> <p>所得改善目標 定置漁業 9.6% 一本釣り漁業等 12.0%</p>
<p>漁業コスト削減のための取り組み</p>	<p>全漁業者は、定期的な船底清掃を実施することで漁船航行時の抵抗を軽減すると共に、出漁、帰港時の減速航行(1ノット)を徹底することで燃油消費量を節減し漁業所得向上を図る。</p> <p>コスト削減目標 定置漁業 9.4% 一本釣り漁業等 2.0%</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>・益田市沿岸漁業水産振興協議会事業 ・新農林水産振興がんばる地域応援総合事業 ・UIターンしまね産業体験事業</p>

4年目(平成29年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・一本釣り漁業者は、島根県水産技術センターとも連携して、活け締め等の処理を行った漁獲物にタグを装着することについて、市場の評価を調査する。市場関係者等からの意見を聞きつつ、評価結果のフィードバックと併せて、統一した手法での活〆技術等を導入し鮮度保持に努めることにより、一本釣り漁獲物の品質改善を図る。</p> <p>また、使用するタグについても、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上が図れるよう、デザインやタグを装着する場所等を決定し、タグ装着の基準や手法について引続き徹底し、魚価の向上を図る。</p> <p>・漁業者は漁協等と協力して、磯根漁場の環境改善のため、岩盤清掃や海藻の食害生物であるウニの駆除を行うことで海藻の再生に取り組み、魚類の産卵や稚魚の育つ環境づくりを推進するとともに、アワビ種苗の放流も行い、アワビ・サザエの資源量の回復を図る。</p> <p>なお、森から海の再生を目的とした植林事業についても継続して実施し、益田市沿岸の環境改善に資する。</p> <p>・定置漁業者及び巻網漁業者は、それぞれの乗組員確保に向けて、(財)しまね定住財団、益田市、JFしまね益田支所による協議を開始し、随時UIターン者の受け入れを行う。</p> <p style="text-align: center;">                 所得改善目標 定置漁業      14.6%                  一本釣り漁業等      24.0%             </p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、定期的な船底清掃を実施することで漁船航行時の抵抗を軽減すると共に、出漁、帰港時の減速航行(1ノット)を徹底することで燃油消費量を節減し漁業所得向上を図る。</p> <p style="text-align: center;">                 コスト削減目標 定置漁業      9.4%                  一本釣り漁業等      2.0%             </p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>・益田市沿岸漁業水産振興協議会事業                  ・新農林水産振興がらる地域応援総合事業                  ・UIターンしまね産業体験事業</p>

5年目(平成30年度)

(最終年度であり、今までの成果を検証するとともに、取組内容を見直しつつ、引き続き以下の取組を確実に実施する。)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>・一本釣り漁業者は、島根県水産技術センターとも連携して、活け締め等の処理を行った漁獲物にタグを装着することについて、市場の評価を調査する。市場関係者等からの意見を聞きつつ、評価結果のフィードバックと併せて、統一した手法での活〆技術等を導入し鮮度保持に努めることにより、一本釣り漁獲物の品質改善を図る。</p> <p>また、使用するタグについても、産地証明のみならず高鮮度処理を行った漁獲物の差別化と付加価値向上が図れるよう、デザインやタグを装着する場所等の決定内容に従い、タグ装着の基準や手法について引続き徹底し、魚価の向上を図る。</p> <p>・漁業者は漁協等と協力して、磯根漁場の環境改善のため、岩盤清掃や海藻の食害生物であるウニの駆除を行うことで海藻の再生に取り組み、魚類の産卵や稚魚の育つ環境づくりを推進するとともに、アワビ種苗の放流も行い、アワビ・サザエの資源量の回復を図る。</p> <p>なお、森から海の再生を目的とした植林事業についても継続して実施し、益田市沿岸の環境改善に資する。</p> <p>・定置漁業者及び巻網漁業者は、それぞれの乗組員確保に向けて、(財)しまね定住財団、益田市、JFしまね益田支所による協議を開始し、随時UIターン者の受け入れを行う。</p> <p style="text-align: center;">所得改善目標 定置漁業 19.6% 一本釣り漁業等 36.0%</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、定期的な船底清掃を実施することで漁船航行時の抵抗を軽減すると共に、出漁、帰港時の減速航行(1ノット)を徹底することで燃油消費量を節減し漁業所得向上を図る。</p> <p style="text-align: center;">コスト削減目標 定置漁業 9.4% 一本釣り漁業等 2.0%</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・益田市沿岸漁業水産振興協議会事業</li> <li>・新農林水産振興がんばる地域応援総合事業</li> <li>・UIターンしまね産業体験事業</li> </ul>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

事業実施に際しては、JFしまね益田支所、益田市(林業水産課)、島根県(浜田水産事務所・水産技術センター)とも連携を行い、円滑かつ効果的な推進に資する。

#### 4 目標

##### (1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上 (釣り・刺網・採介藻漁業)	基準年	平成 年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

漁業所得の向上 %以上 (定置漁業)	基準年	平成 年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成 年度 : 漁業所得	千円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

#### 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
産地水産業強化支援事業	漁業施設の機能保全
漁業経営セーフティーネット構築事業	燃油価格高騰対策
省燃油活動推進事業	省燃油活動の推進
水産多面的機能発揮対策事業	海岸清掃、漁場監視
新規漁業就業者総合支援事業	新規漁業就業者確保・育成
未定	漁港施設の機能保全
新農林水産振興がんばる地域応援総合事業(県単)	魚価、付加価値向上の取組

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。